

2023年度フラノマルシェ 入場者数・売上ともに過去最高を記録

平素はふらのまちづくり株式会社の運営に深いご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。弊社運営の複合商業施設「フラノマルシェ」は、2023年度（2023年4月1日～2024年3月31日）、**入場者数125万6千人（前年対比105.6%）、売上高8億57百万円（前年対比109.7%）**となり、**ともに2010年4月のオープン以来、過去最高を記録しました。**

インバウンドの復活により下半期の伸びが顕著に

①スキー客を中心にインバウンドの入り込みが復活

2023年のフラノマルシェの入場者数は、上半期、コロナ禍以前の2019年度の実績をやや下回る結果でしたが、下半期に入ると冬場のスキー客を中心にインバウンドの復活が顕著となり、通年では入場者数、売上ともに過去最高を記録することとなりました。コロナ禍が収束したことや記録の円安などが追い風となり、アジア圏（中国を除く）を中心にインバウンドの入り込みが本格化したことが最大の要因と分析しています。

地球温暖化が進む中で、近年インバウンドから北海道のスキー場が注目されるようになり、とりわけ「パウダースノー」と呼ばれる富良野やニセコの上質な雪を求める外国人スキー客が急増しており、この傾向は今後もしばら続くものと推測しています。

富良野の冬場の観光客入込はここ数年緩やかながら確実に伸びてきており、長年富良野の観光課題とされてきた冬期間の落ち込みは徐々に改善されつつあります。

フラノマルシェでは、富裕層への対応として、各テナント店による「ふらの和牛」を使用した高級志向のメニュー・商品の開発を進めていますが、並記されたメニューの中でも高価なメニューほどよく売れる傾向がみられ、また、長期滞在の外国人スキー客によるテイクアウトフードのまとめ買いも顕著にみられました。

②地元のお客様の復活

新型コロナウイルスが5類に移行し、昨年あたりから徐々に週半ばの平日のカフェの利用者が伸びており、コロナ禍の数年間、活動を制限されていた地元の文化サークルなど、グループのお客様によるフリースペースの利用が復活したことを実感しています。

③悪天候時の滞留場所としての活用

外国人スキー客の増加には、全天候型交流空間「タマリーバ」の存在も大きく影響しており、冬期間の悪天候時には、スキーができずに、時間を持て余して当施設で過ごす外国人観光客が増え、冬場のまちばのにぎわいに一役買っております。また、マルシェ2に設置したキッズスペースの利用頻度も高まっており、特に、夏の猛暑日や冬の悪天候時には、地元の家族連れのお客様がお食事を召し上がりながら遊ぶ光景が顕著に見られるようになりました。

全国的な旅行需要がコロナ前の約9割まで復活しつつあると報道される中、当施設といたしまして、コロナ前の実績を大幅に超えられたことは特筆すべきことと考えております。

引き続き、クオリティとホスピタリティーの向上を目指しながら、より快適な施設運営を行って参る所存です。なお、今年度は秋頃にオープン以来の入込客数が1500万人を達成する見込みであることも付記させていただきます。

【本件に関するお問合せ】

ふらのまちづくり株式会社（担当：吉田・藤田・野原）
富良野市幸町13番1号 ☎ 0167-23-5177 / メール info@machi.furano.jp

